



私服で内定式に参加するミッドホールディングスグループの内定者。和やかな雰囲気です。

地域貢献へ決意新た

県内企業、大学生ら内定式

来年3月卒業予定の大学生らを採用する県内企業の内定式は1日、各地で行われた。企業側は学生と密なコミュニケーションを図ろうと工夫を凝らし、内定者は「地元や県内に貢献したい」と決意を新たにした。

情報通信業のミッドホールディングスグループは盛岡市上堂の本社で内定式を行い、私服姿の内定者3人が顔をそろえた。会食で水野剛代表取締役手作りのハンヤシライスを味わい、東京電機大4年の村上高思さん

〔21〕盛岡市出身は「社内の雰囲気良く、地元で働くことができうれしい」と意欲を高めた。

同市中央通のみちのくコカ・コーラボトリング(谷村広和社長)本社では、内定者5人が出席。長野大4年の梅里萌水さん〔21〕同市出身は「卒業後は戻りたいと思っていた。商品を通じ地域の人と関わりたい」と話した。

北日本銀行(石塚恭路頭取)は同市内のホテルで行い、31人が出席。青森公立大4年の松林将輝さん〔22〕岩泉町出身は「先輩や同期と話し、あつという間の一日。入行に向けて資格も取りたい」と意気込んだ。

薬王堂(盛岡市、西郷孝一社長)は南東北や北関東への出店加速もあり、仙台市内で内定式を実施。ワークショップで、先輩社員や内定者が交流した。

内定式は、新型コロナウイルス対策で一時オンライン実施が進んだ。就職情報会社「学情」の全国調査によると、対面方式で式を行う企業は87・4%に上り、約6割の企業で社員との交流の場を設けている。